

エッチュウバイの資源管理に関する研究

(第2県土水産資源調査)

向井哲也・道根淳

1. 研究目的

エッチュウバイ資源の持続的利用を図るため、エッチュウバイの資源生態およびばいかご漁業の漁獲実態を調査し、適正漁獲量、漁獲努力等の提示ならびに漁業情報の提供を行なう。これにより本資源の維持・増大とばいかご漁業経営の安定化を図る。なお、調査結果の詳細については、平成20年度の漁況に記載した。

2. 研究方法

(1) 漁業実態調査

TAC漁獲システムによる漁獲データと各漁業者に記入依頼を行なっている操業野帳を解析し、エッチュウバイの漁獲動向、資源状態、価格動向、漁場利用について検討を行なった。

(2) 資源生態調査

JF大田支所ならびにJF仁摩支所に水揚げされる漁獲物の殻高を銘柄別に測定し、この結果と銘柄別漁獲箱数からエッチュウバイの殻高組成を推定した。また、村山・由木が求めたAge-length Keyを用いて漁獲物の年齢組成を求めるとともに、日別漁獲データを元にDelury法による資源状態の解析を行なった。

3. 研究結果

(1) 漁獲動向

平成20年のエッチュウバイの漁獲量は91トンとほぼ平年並であった。また1隻あたり漁獲量は16トンと平年の110%であった(1隻あたり漁獲量は、6月に休漁した1隻を除いて集計)。ただし、エッチュウバイの単価は平均365円/kg(前年371円)と過去最低で、バイの漁獲金額は3,317万円(平年の76%)にとどまった。

(2) 資源状態

資源状態の目安となる1航海当たり漁獲量は平成20年度は522kg/航海であり、ここ3年は比較的高い水準となっているが、1航海当たり漁獲個数で見ると依然低い水準にある。1航海当たり漁獲量が多いのは大型貝が多いためであり、漁獲物の殻長組成から見ても小型貝が少なく、資源状況は依然厳しい状況にあると考えられる。

4. 研究成果

調査で得られた結果は、島根県小型機船漁業協議会ばい部会の資源管理指針として利用されており、これを元に漁業者が自主的に漁獲量の上限を定めるなどの資源管理が行われている。

5. 文献

村山達朗・由木雄一：島根県水産試験場事業報告書(平成4年度),64-69(1991)